

温度データとロケーション情報を一元管理。

RFIDで始める、 温度とロケーション管理

複数の監視ポイントにセンサータグを設置するだけで、温度を自動で記録。タグIDと設置場所を紐付けることで、ロケーションごとの温度管理も可能です



＜RFID温度センサータグ＞ ＜RFIDリーダライタ＞



管理センター(イメージ)

管理センターなど離れた場所からでも、温度情報をリアルタイムに確認・管理できます



温度センサータグで温度を自動取得

設備・保管エリア・対象物の温度を自動で取得できます



複数箇所の温度を自動記録

複数の監視ポイントに設置し、継続的に温度データを記録



非接触で一括読み取り

RFIDリーダで複数タグをまとめて読み取り



温度のロケーション履歴を管理

タグIDと設置場所を紐付け、エリアごとの温度履歴を一元管理

温度とロケーションの見える化で、運用を最適化（運用イメージ）

①センサータグを取り付け

設備・配管・保管エリアなどにRFID温度センサータグを設置



②タグを読み取り

RFIDリーダがタグを読み取り上位に送信



アンテナ



RFIDリーダ

③温度とロケーションを記録

タグIDごとに「いつ・どこで・どのくらい」の温度だったかを履歴として記録



温度履歴＋ロケーションを管理

④活用・アラート通知

温度異常を検知するとアラート通知。履歴データを分析・活用可能。



品質保証・業務改善に貢献

温度センサータグ

＜AZN3110/AZN3250＞

- UHF帯RFID温度センサータグ
- バッテリーレスでメンテナンス不要
- 動作温度範囲 -40～+85℃
- タグIDによるロケーション管理
- 複数タグを一括読み取り
- 金属面への設置に対応
- モーター・ベアリング・配管の温度監視
- 設備の予知保全・異常検知に最適



＜AZN3110＞



＜AZN3250＞

RFIDリーダライタ

＜SR740＞

- UHF帯RFIDリーダ・ライタ
- 送信出力1W(30dBm)
- 最大4アンテナ接続
- 複数エリアを同時監視
- 複数タグを一括読み取り
- LAN/Wi-Fi/Bluetooth対応
- 自律動作（上位制御不要）
- 温度データをリアルタイム収集

